

(19) 日本国特許庁 (JP)

(12) 特 許 公 報 (B2)

(11) 特許番号

特許第4178038号

(P4178038)

(45) 発行日 平成20年11月12日 (2008.11.12)

(24) 登録日 平成20年8月29日 (2008.8.29)

(51) Int. Cl.	F 1
A 6 1 F 13/15 (2006.01)	A 6 1 F 13/18 Z
A 6 1 F 13/472 (2006.01)	A 6 1 F 13/18 3 7 O
A 6 1 F 5/44 (2006.01)	A 6 1 F 5/44 H

請求項の数 15 (全 21 頁)

(21) 出願番号	特願2002-590873 (P2002-590873)	(73) 特許権者	000115108
(86) (22) 出願日	平成14年5月21日 (2002.5.21)		ユニ・チャーム株式会社
(86) 国際出願番号	PCT/JP2002/004885		愛媛県四国中央市金生町下分182番地
(87) 国際公開番号	W02002/094149	(74) 代理人	100106002
(87) 国際公開日	平成14年11月28日 (2002.11.28)		弁理士 正林 真之
審査請求日	平成17年4月14日 (2005.4.14)	(74) 代理人	100116872
(31) 優先権主張番号	特願2001-152403 (P2001-152403)		弁理士 藤田 和子
(32) 優先日	平成13年5月22日 (2001.5.22)	(72) 発明者	水谷 聡
(33) 優先権主張国	日本国 (JP)		香川県三豊郡豊浜町和田浜高須賀1531
(31) 優先権主張番号	特願2001-319915 (P2001-319915)		-7 ユニ・チャーム株式会社テクニカル
(32) 優先日	平成13年10月17日 (2001.10.17)		センター内
(33) 優先権主張国	日本国 (JP)	(72) 発明者	八巻 孝一
			香川県三豊郡豊浜町和田浜高須賀1531
			-7 ユニ・チャーム株式会社テクニカル
			センター内

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 陰唇間パッド及びその包装体

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項1】

身体側に面する透水性の被覆シートと衣服側に面する不透水性のサポートシートとが体液を吸収する吸収体を内包させた形態で接合されて成るものであり、陰唇に係着させて用いる陰唇間パッドであって、

当該陰唇間パッド取り外し用に当該陰唇間パッドから突出しているプルアップ体を備え

、
当該プルアップ体の一部に開口部又は切込み部が形成されていることを特徴とする陰唇間パッド。

【請求項2】

前記プルアップ体に形成された開口部又は切り込み部が、角を有しない形状である請求の範囲第1項に記載の陰唇間パッド。

【請求項3】

前記プルアップ体が前記陰唇間パッドから突出している状態は、前記陰唇間パッドの前端部からの突出、若しくは、前記陰唇間パッドの側縁部からの突出であることを特徴とする請求の範囲第1項又は第2項に記載の陰唇間パッド。

【請求項4】

前記被覆シートの衣服側表面と前記サポートシートの身体側表面とが前記陰唇間パッドの周縁部で接合されることによって周縁接合部が形成されている陰唇間パッドであって、

前記周縁接合部の一部が、前記プルアップ体とされている請求の範囲第1項から第3項

のいずれかに記載の陰唇間パッド。

【請求項 5】

前記陰唇間パッドの周縁部において、前記被覆シートの衣服側表面と前記サポートシートの身体側表面とが貼着されることによって周縁接合部が形成されている陰唇間パッドであって、

前記周縁接合部から前記被覆シートが突出しており、当該突出した被覆シートが前記プルアップ体とされている請求の範囲第 1 項から第 3 項のいずれかに記載の陰唇間パッド。

【請求項 6】

前記陰唇間パッドの周縁部において、前記被覆シートの衣服側表面と前記サポートシートの身体側表面とが貼着されることによって周縁接合部が形成されている陰唇間パッドであって、

前記周縁接合部から前記サポートシートが突出しており、当該突出したサポートシートが前記プルアップ体とされている請求の範囲第 1 項から第 3 項のいずれかに記載の陰唇間パッド。

【請求項 7】

前記プルアップ体と前記周縁接合部との境界近傍に、液体の滲出を抑制するための圧縮域が形成されている請求の範囲第 1 項から第 6 項のいずれかに記載の陰唇間パッド。

【請求項 8】

前記サポートシートの衣服側に、当該サポートシートの長手方向の各側部において一箇所以上の接合部分と、当該サポートシートの短手方向において一箇所以上の非接合部分と、をもって接合されたミニシート片を備え、前記一箇所以上の非接合部分の少なくとも一つが、前記ミニシート片と前記サポートシートとの間において、前記サポートシートの面方向に指幅の開口が直接的に確保される指挿入用口を形成するものである請求の範囲第 1 項から第 7 項のいずれかに記載の陰唇間パッド。

【請求項 9】

前記ミニシート片の一部がプルアップ体とされている請求の範囲第 8 項に記載の陰唇間パッド。

【請求項 10】

生理用ナプキンと併用される生理用ナプキン併用用陰唇間パッドである請求の範囲第 1 項から第 9 項のいずれかに記載の陰唇間パッド。

【請求項 11】

前記陰唇間パッドは尿失禁用の陰唇間パッドであることを特徴とする請求の範囲第 1 項から第 10 項のいずれかに記載の陰唇間パッド。

【請求項 12】

前記陰唇間パッドはおりもの吸収用の陰唇間パッドであることを特徴とする請求の範囲第 1 項から第 11 項のいずれかに記載の陰唇間パッド。

【請求項 13】

請求の範囲第 1 項から第 12 項のいずれかに記載の陰唇間パッドが個別包装用の包装容器に内包されている包装体。

【請求項 14】

請求の範囲第 8 項から第 12 項のいずれかに記載の陰唇間パッドが、開封口を有する個別包装用の包装容器に内包されている包装体であって、

前記陰唇間パッドが、前記指挿入用口が前記開封口に向かって開口するように、前記包装容器に内包されている包装体。

【請求項 15】

前記陰唇間パッドが、前記ミニシート片が前記陰唇間パッドの長手方向の略中心線に沿って衣服側方向に向かって山折り状となるように、前記包装容器に内包されている請求の範囲第 14 項に記載の包装体。

【発明の詳細な説明】

【0001】

発明の背景

技術分野

本発明は、女性の陰唇に係着させて用いる、特に、生理用ナプキンと併用され得る陰唇間パッド、並びに、当該陰唇間パッドが個別包装用の包装容器に内包されている包装体に関する。

【0002】

関連技術

従来より、女性用生理用品としては、生理用のナプキンやタンポンが一般的に用いられている。しかしながら、ナプキンについては、衣服に当接させて用いるものであり、膣口付近への密着性が乏しいために身体との隙間から経血のモレが生じ易く、一方、タンポンは、その物品の属性に起因して、装着時の異物感や不快感を生じ易く、膣内への装着が困難であるという問題があった。

10

このような状況下、ナプキンとタンポンの中間に位置する生理用品として、近年、陰唇間パッドなる生理用品が注目されるようになってきている。

【0003】

この陰唇間パッドは、女性の陰唇間にその一部分を挟み込ませ、陰唇に当接させて装着するというものであり、生理用ナプキンに比して小型であるため装着感に優れ、快適であることの他、経血で身体を汚す範囲が狭いため衛生的で清潔であるという利点がある。また、生理用ナプキンよりも身体との密着性が高いためにモレが生じ難く、膣内に挿入するタンポンと比較して装着時の心理的抵抗も少ないという特徴を有している。

20

【0004】

ところで、陰唇間パッドと同様に陰唇に係着して用いる製品として、女性の尿失禁を防止するための尿失禁防止器具がある。この尿失禁防止器具においては、着用者が使用後の器具を陰唇間から取り外すことを容易とするために、例えば、第2図に示すように、尿道を閉鎖する弾性本体26から成り、器具の衣服側（陰唇非接触面側）にリング28等の突起物を備えた尿失禁防止器具24が開示されている（特表平6-506368号公報）。

【0005】

上記尿失禁防止器具は、着用者が使用後の器具を陰唇間から取り外す際に、器具の衣服側に取り付けられた突起物を摘むことによってその取り外し操作を容易に行うことができるように工夫がなされているものであるが、以下に掲げるよう問題点を有していた。

30

【0006】

第1には、第2図に示すように、突起物（リング28）が、器具の衣服側の中央部近傍に取り付けられたものであるため、器具の装着状態においては、着用者が突起物の視認が困難な状態にある点が問題であった。即ち、器具の取り外しの際に、その視認困難な突起物を探り当てるために、着用者は前屈みの窮屈な姿勢を強いられることとなるという問題点があった。

【0007】

第2には、着用者が突起物の視認が困難となることに起因して、着用者は突起物を手探りで探し当てなければならない点が問題であった。即ち、尿や体液の付着している陰唇と指とを接触させなければ器具を取り出すことができないため、手洗いが必要で面倒であり、心理的にも不衛生な感じを与えるという問題点があった。

40

【0008】

第3には、器具の衣服側に裏面側に突起物としてリング等を取り付けるとすると、その形状に起因して器具を貫通するように取り付けなければならないという点が問題であった。即ち、器具の裏面側は、吸収した尿や体液が衣服側に滲み出すことを防止するために不透水性材料によって構成することが一般的であるが、リング等の取り付けにより当該不透水性材料に穴を開けることになり、液モレを生じてしまうという問題点があった。このような器具では、着用者の肌を広く汚すことのない清潔性と、下着への汚れ付着が低減される安心感という、基本的な両性能を担保することができない。

【0009】

50

本発明は、以上のような課題に鑑みてなされたものであり、その目的は、着用者の肌を広く汚すことのない清潔性と、下着への汚れ付着が低減される安心感という、基本的な性能を担保するのは勿論のこと、陰唇間から迅速かつ簡便に、しかも衛生的に取り外すことが可能な陰唇間パッドを提供することにある。

【0010】

発明の開示

上記のような課題を解決するために、本発明においては、陰唇間パッドを陰唇に係着させた状態において、陰唇間パッドから外側に向かって突出するプルアップ体を備えたものとすることによって、着用者の肌を広く汚すことのない清潔性と、下着への汚れの付着が低減される安心感という、基本的な性能を担保するのは勿論のこと、陰唇間から迅速かつ簡便に、しかも衛生的に取り外すことを可能とするものである。

10

【0011】

より具体的には、本発明は以下のようなものを提供する。

【0012】

(1) 身体側に面する透水性の被覆シートと衣服側に面する不透水性のサポートシートとが体液を吸収する吸収体を内包させた形態で接合されて成るものであり、陰唇に係着させて用いる陰唇間パッドであって、当該陰唇間パッド取り外し用に当該陰唇間パッドから突出しているプルアップ体を備えたものであることを特徴とする陰唇間パッド。

【0013】

本発明の陰唇間パッドには、陰唇間パッドから突出するようにプルアップ体が設けられているため、当該陰唇間パッドを陰唇に係着した状態において、プルアップ体が陰唇の外へと露出することとなる。しかも、このプルアップ体は、指で摘むのに十分な大きさを有していることから、着用者は、かかるプルアップ体を摘んで引っ張ることにより、陰唇間パッドを容易に陰唇間から取り出すことが可能となっている。

20

【0014】

そして、陰唇の外にプルアップ体が露出しているために、着用者はプルアップ体を極めて容易に視認することができ、プルアップ体を手探りで探し当てなければならないということがなくなる。このため、陰唇間パッドを取り外す際に、経血や体液の付着している陰唇と指とが接触してしまうという事態が防止される。従って、陰唇間パッドを取り外した後には手洗いは不要であり、心理的にも不衛生な感を与えない。

30

【0015】

更には、プルアップ体は、従前のリング等とは異なり、陰唇間パッドを貫通させなくとも（穴を開けなくても）取り付けることが可能であるため、液モレを生じてしまう事態も回避することができる。従って、着用者の肌を広く汚すことのない清潔性と、下着への汚れ付着が低減される安心感という、基本的な性能を担保することが可能となる。

【0016】

(2) 前記プルアップ体が前記陰唇間パッドから突出している状態は、前記陰唇間パッドの前端部からの突出、若しくは、前記陰唇間パッドの側縁部からの突出であることを特徴とする(1)記載の陰唇間パッド。

【0017】

本発明の陰唇間パッドによれば、プルアップ体は、陰唇間パッドの前端部（装着時において着用者の膣核近傍に位置する部分）から、若しくは、側縁部（装着時において着用者の大腿部近傍に位置する部分）から、突出するように設けられている。このため、装着時においては、かかるプルアップ体は、着用者の陰唇から着用者の身体前方に向かって、あるいは、着用者の陰唇からその垂直方向に位置する衣服側に向かって、露出することとなる。

40

【0018】

本発明の陰唇間パッドは、例えば、第3図及び第4図に示すように、透水性の被覆シート41と不透水性のサポートシート42とが経血を吸収する吸収体を内包させた形態で接合されて成るものである。着用時には被覆シート41を身体側に対向させ、サポートシ

50

ト４２を衣服側に対向させるようにして用いられる。そして、図示の例では、サポートシート４２にプルアップ体４８が貼着されている。このプルアップ体４８は、陰唇間パッド４４の長手方向の縁端（身体前方側に近い方の縁端）において、当該縁端の先端から更に身体前方側に向かって突出するように形成されている。

【００１９】

このような第３図及び第４図に示す陰唇間パッド４４は、長手方向の略中心線４６ａに沿って折曲し（第５図参照）、陰唇に挟み込むことによって陰唇に係着させる。この陰唇に係着した状態において、プルアップ体４８は陰唇から身体前方側に向かって突出しているので、着用者がプルアップ体４８を極めて容易に視認することができる。従って、陰唇間パッド４４の取り外しの際に、プルアップ体４８を探り当てるために、着用者が前屈みの窮屈な姿勢を強いられるというようなことが防止される。

10

【００２０】

本発明におけるプルアップ体は、上述の第３図及び第４図に示すような、陰唇間パッド４４の長手方向の縁端（身体前方側に近い方の縁端）において、当該縁端の先端から更に身体前方側に向かって突出しているものに限られず、例えば、第６図や第２９図に示すように、陰唇間パッド４４の側縁部から更に側方に向かって突出している部材であってもよい。

【００２１】

このような陰唇間パッド４４は、陰唇に係着させる際には、第７図や第３０図に示すように、長手方向の略中心線４６ａに沿って折曲した状態で陰唇間に挟み込まれる。そして、プルアップ体４８は、陰唇間パッド４４の陰唇への装着状態に応じ、身体前方側に向かって露出したり、衣服方向側に向かって垂直に露出したりすることとなる。

20

【００２２】

陰唇間パッドを陰唇から取り外し、便器に廃棄するときにおいて、サポートシート側（衣服接触面）を下側に向けて廃棄すると、サポートシートが不透水性であるが故に陰唇間パッドが水面上に浮かんでしまい、なかなか流すことができない場合がある。この点、第３０図に示すように、プルアップ体４８が陰唇間パッド４４の側縁部から更に側方に向かって突出している構造の場合には、第３１図に示すように、プルアップ体４８を手５８で引っ張って陰唇間パッド４４を陰唇５７から取り外した後、手を返すようにして陰唇間パッド４４を下側に向けると、自然に陰唇間パッド４４の被覆シート側（陰唇内壁接触面）も下側に向くように仕向けられることになる。この状態で陰唇間パッド４４を廃棄すれば、陰唇間パッド４４が前記被覆シート側から水を吸収して自重で沈降するため、陰唇間パッド４４が水面上に浮かぶことはなく、速やかに流すことが可能となるという利点がある。

30

【００２３】

第６図や第２９図に示すような構造においては、プルアップ体４８の長さ（突出方向の寸法）は、着用者が容易に掴むことができる長さとするべく、少なくとも１０mm以上とすることが好ましく、１０～６０mmの範囲とすることが更に好ましい。一方、プルアップ体４８の幅（突出方向と直交する方向の寸法）は、少なくとも５mm以上とすることが好ましく、１０～２０mmの範囲とすることが更に好ましい。

40

【００２４】

本発明の陰唇間パッドにおけるプルアップ体は、陰唇間パッドを陰唇に係着させた状態で陰唇外部へ露出するものであればよく、第３図及び第４図、第６図や第２９図に示すようなシート状のもののほか、例えば、タンポンの取り出し紐の如きものであってもよい。具体的には、複数のフィラメントを束ねた後に、撚りをかけることにより得られる５００～５０００d t e xの範囲に調整された撚糸を用いることができ、これを陰唇間パッドが陰唇に係着されたときに陰唇外部へ露出するように付設すればよい。

【００２５】

（３） 前記被覆シートの衣服側表面と前記サポートシートの身体側表面とが前記陰唇間パッドの周縁部で接合されることによって周縁接合部が形成されている陰唇間パッドで

50

あって、前記周縁接合部の一部が、前記プルアップ体とされている上記（１）又は（２）に記載の陰唇間パッド。

【００２６】

本発明の陰唇間パッドにおいては、例えば、第３図及び第４図に示すように、プルアップ体４８を別途付設するものであってもよいが、陰唇間パッドの一部を延出させることによってプルアップ体を形成してもよい。例えば、第８図及び第９図に示すように、被覆シート４１の衣服側表面とサポートシート４２の身体側表面とが陰唇間パッド４４の周縁部で接合されることによって周縁接合部４５が形成されている場合においては、周縁接合部４５の一部が、陰唇間パッド４４の身体前方側の縁端から身体前方側に向かって突出するプルアップ体４８とされているものであってもよい。このような態様は、別途プルアップ体を付設する態様と比較して、より簡便にプルアップ体を形成することができるという利点がある。

10

【００２７】

（４） 前記陰唇間パッドの周縁部において、前記被覆シートの衣服側表面と前記サポートシートの身体側表面とが貼着されることによって周縁接合部が形成されている陰唇間パッドであって、前記周縁接合部から前記被覆シートが突出しており、当該突出した被覆シートが前記プルアップ体とされている上記（１）又は（２）に記載の陰唇間パッド。

【００２８】

上記（３）に記載の陰唇間パッドと同様の構成において、周縁接合部全体を突出させるのではなく、被覆シートのみを突出させてプルアップ体としてもよい。例えば、第１０図に示すように、周縁接合部４５から被覆シート４１が突出しており、当該突出した被覆シート４１が陰唇間パッド４４の身体前方側の縁端から身体前方側に向かって突出するプルアップ体４８とされているものであってもよい。このような態様も、別途プルアップ体を付設する態様と比較して、より簡便にプルアップ体を形成することができるという利点がある。

20

【００２９】

（５） 前記陰唇間パッドの周縁部において、前記被覆シートの衣服側表面と前記サポートシートの身体側表面とが貼着されることによって周縁接合部が形成されている陰唇間パッドであって、前記周縁接合部から前記サポートシートが突出しており、当該突出したサポートシートが前記プルアップ体とされている上記（１）又は（２）に記載の陰唇間パッド。

30

【００３０】

上記（３）に記載の陰唇間パッドと同様の構成において、周縁接合部全体を突出させるのではなく、サポートシートのみを突出させてプルアップ体としてもよい。例えば、第１１図に示すように、周縁接合部４５からサポートシート４２が突出しており、当該突出したサポートシート４２が陰唇間パッド４４の身体前方側の縁端から身体前方側に向かって突出するプルアップ体４８とされているものであってもよい。このような態様も、上記（３）及び（４）に記載の陰唇間パッドと同様の効果を得ることができる。

【００３１】

（６） 前記プルアップ体の一部に不連続部が形成されている上記（１）から（５）のいずれかに記載の陰唇間パッド。

40

【００３２】

本発明の陰唇間パッドは、例えば、第１２図に示すように、プルアップ体４８の一部に不連続部５０が形成されているものが好ましい。不連続部５０を形成することにより、陰唇間パッド４４に吸収された経血の滲出が不連続部５０において遮断されるため、経血がプルアップ体４８にまで滲出し、陰唇間パッド４４の取り外しの際に、経血が指に付着してしまう事態を防止することができる。

【００３３】

（７） 前記不連続部が、前記プルアップ体に形成された開口部又は切り込み部である上記（６）に記載の陰唇間パッド。

50

【0034】

不連続部の具体的な例としては、例えば、第13図に示すように、プルアップ体48に形成した開口部50a又は切り込み部を挙げることができる。陰唇間パッド44に吸収された経血の滲出を防止するためには、パッドの短手方向に向かって長い横長の形状であることが好ましい。

【0035】

(8) 前記プルアップ体に形成された開口部又は切り込み部が、角を有しない形状である上記(7)に記載の陰唇間パッド。

【0036】

プルアップ体に形成された開口部又は切り込み部は、第13図に示す開口部50aのように角を有する形状であってもよいが、例えば、第14図に示す開口部50bのように角を有しない形状であることが好ましい。即ち、陰唇間から陰唇間パッド44を取り外す際には、プルアップ体48を身体前方側に向かって引っ張ることになるが、第13図に示す開口部50aのような角を有する形状とした場合には、角の部分に応力が集中し、当該角の部分からプルアップ体が破断してしまうおそれがある。この点、第14図に示す開口部50bのような角を有しない形状(曲率を有する形状)とすれば、応力が分散し、このような事態を防止することができる。

10

【0037】

(9) 前記プルアップ体と前記周縁接合部との境界近傍に、液体の滲出を抑制するための圧縮域が形成されている上記(1)から(8)のいずれかに記載の陰唇間パッド。

20

【0038】

本明細書にいう「圧縮域」とは、プルアップ体と周縁接合部との境界近傍に位置する、少なくとも被覆シートとサポートシートを圧縮することにより形成される領域である。圧縮された被覆シートとサポートシートは高密度となるために液体の滲出を抑制することができるという効果を奏する。従って、プルアップ体に経血が滲み出すことを未然に防止することができ、プルアップ体を引っ張ってパッドを取り外す際に経血が指に付着してしまう事態を回避することができる。

【0039】

圧縮域は、例えば、エンボス加工等(好ましくは、熱エンボス加工)を利用して、少なくとも被覆シートとサポートシートを圧縮加工することにより形成することができる。圧縮域を形成するエンボスの配列は、例えば、線状、ドット状などが挙げられるが、陰唇内における柔軟な装着性を考慮すると、ドット状であることがより好ましい。ドット状の場合には、例えば0.3~1.0mm²のドット状のエンボスを、0.5~2mmの間隔を空けて配列したパターンとすることが好ましい。

30

【0040】

圧縮域は、長さ(パッドの長手方向の寸法)は、着用中の硬さを考慮して、0.3~2mmの範囲であることが好ましく、幅(吸収体の外縁に沿って圧縮域を形成した場合における延べ寸法)は、陰唇内における柔軟な装着性を考慮して、3~20mmの範囲であることが好ましい。

【0041】

40

(10) 前記サポートシートの衣服側に、当該サポートシートの長手方向の各側部において一箇所以上の接合部分と、当該サポートシートの短手方向において一箇所以上の非接合部分と、をもって接合されたミニシート片を備え、前記一箇所以上の非接合部分の少なくとも一つが、前記ミニシート片と前記サポートシートとの間において、前記サポートシートの面方向に指幅の開口が直接的に確保される指挿入用口を形成するものである上記(1)から(9)のいずれかに記載の陰唇間パッド。

【0042】

本発明の陰唇間パッドには、例えば、第15図又は第16図に示すように、指挿入用口53を形成するためのミニシート片52を付設することができる。第15図、第16図に示すように、ミニシート片52は、サポートシート42の短手方向においては、ミニシー

50

ト片52の両袖部のうち少なくとも一方の袖部が、サポートシート42の表面に対して接合されていない。これにより、非接合状態にあるミニシート片52の一方の袖部とサポートシート42との間に袖口が形成され、かかる袖口が指の挿入が可能な指挿入用口53となる。

【0043】

また、サポートシート42の長手方向においては、ミニシート片52はサポートシート42の左右側部においてのみ接合され、内側については接合（貼着）されていない。このため、ミニシート片52はサポートシート42の一方の側部から他方の側部にまたがった状態で取り付けられることとなり、かかる一方の側部から他の側部にまたがった部分において、貫通した或いは非貫通の空間（指挿入用空間）が形成される。かかる空間には、指を挿入して保持することが可能である。

10

【0044】

ここで、本明細書において「指幅」とは、指の厚みではないことを意味し、具体的には爪の広がり方向の指の幅のことをいい、「指幅の開口」とは、指を挿入することができるのに十分な大きさを有する開口をいう。

【0045】

また、サポートシートの面方向に指幅の開口が「直接的に確保される」とは、パッド装着のために指をパッドに自然な形で挿入した場合に（指の腹がサポートシートの衣服側面に向くようにしてそのまま挿入した場合に）、パッド自体が一次的に指挿入に適するような形となるように形成されていることを意味する。このため、着用者が指を挿入した後に指を回転させることにより面方向に指幅の開口を確保できるというような、二次的にサポートシートの面方向に指幅の開口が形成される場合は除かれることとなる。

20

【0046】

以上に説明したようなミニシート片を備えたパッドにおいては、前記指挿入用口に指を挿入することにより、指先にパッドを一時的に固定して保持することが可能となる。この場合において、指挿入用口は、着用者の指幅の開口となるように形成されているため、扁平な形状である指先が、サポートシートに対して異方向となることなく、自然にサポートシートの面に接するように挿入されるようになる。即ち、指挿入用口が着用者の指先形状に倣ってサポートシートの面方向に幅広な形状となっているため、着用者の指挿入方向が決定され、指先の腹で装着ポイントを探知するように着用者を仕向けることができるのである。これにより、目視困難な陰唇間への装着であっても、正確な装着ポイントを的確に把握しながら、適切な位置にパッドを装着することが可能となる。

30

なお、本発明において、サポートシートの長手方向における「側部」には、パッドの周縁部のみならず、ミニシート片の接合可能な周縁部近傍も含まれる。

【0047】

（11） 前記ミニシート片の一部がプルアップ体とされている上記（10）に記載の陰唇間パッド。

【0048】

既述の如く、本発明におけるプルアップ体は、周縁接合部全体を突出させたり、或いは被覆シートやサポートシートのみを突出させることによって形成することができるが、前記ミニシート片の一部を延出することによってプルアップ体を形成してもよい。例えば第32図から第34図に示す陰唇間パッドは、帯状のミニシート片52の側縁部を更にパッドの側方に延出させることによって、プルアップ体48を形成したものである。この態様では、ミニシート片52の中央部がサポートシート42との間で指挿入用の空間を形成するとともに、その端部がプルアップ体48を形成することになる（第34図参照）。このような態様も別途プルアップ体を付設する態様と比較して、より簡便にプルアップ体を形成することができるという利点がある。

40

【0049】

（12） 生理用ナプキンと併用される生理用ナプキン併用用陰唇間パッドである上記（1）から（11）のいずれかに記載の陰唇間パッド。

50

【0050】

生理用ナプキン（以下、単に「ナプキン」と記す。）の利用者の中には、経血の量が多いときは何枚か重ねて使用するという者もいるが、ゴワゴワする等、装着感が悪く、衣服の外部からパッドの存在を察知され易い（目立つ）という問題があった。また、膣近傍以外の重ね使用が不要な部分にまでナプキンが重ねられてしまうため、かぶれやムレの原因ともなっていた。しかし、パッドとナプキンを併用することにより、膣近傍のみに生理用品が重ねられることとなるため、上記の問題を回避することが可能である。更には、ナプキンを交換することなく、パッドのみを交換することができるため、着用者は人目につき易い大きさのナプキンを持ち歩かずに済む、という効果もある。ここで生理用ナプキンとは経血吸収用として販売されているナプキンだけでなく、おりもの吸収用シートも含んでよい。

10

【0051】

（13） 前記陰唇間パッドは尿失禁用の陰唇間パッドであることを特徴とする上記（1）から（12）のいずれかに記載の陰唇間パッド。

【0052】

本発明に係る陰唇間パッドによれば、尿失禁用の吸収パッドとして使用することができる。即ち、経血を排出する膣口と尿を排出する尿道口とはいずれも陰唇間に位置するものであるため、本発明に係る陰唇間パッドを陰唇間に挟み込んで使用した場合には、尿を吸収することができる。

このように、本発明によれば、尿を陰唇間、特に尿道口付近で吸収できるので、尿失禁特に軽度の尿失禁に対して有効な吸収パッドを得ることができる。

20

【0053】

（14） 前記陰唇間パッドはおりもの吸収用の陰唇間パッドであることを特徴とする上記（1）から（12）のいずれかに記載の陰唇間パッド。

【0054】

本発明に係る陰唇間パッドによれば、陰唇間パッドをおりもの吸収用として使用することができる。即ち、本発明に係る陰唇間パッドは陰唇間に挟み込んで使用するものであることから、膣口からの経血以外の分泌物（おりもの）も吸収することができるので、そのための用途（おりもの吸収用）にも使用することができるのである。

このように、本発明によれば、おりものを吸収して着用者の不快感を軽減することができるため、生理時以外の着用者にとっても有効である。

30

【0055】

（15） 上記（1）から（14）のいずれかに記載の陰唇間パッドが個別包装用の包装容器に内包されている包装体。

【0056】

陰唇間パッドを個別包装すると、パッドを一つずつ（個別包装毎に）持ち運ぶことが可能となる。このような形態は、複数のパッドを1つの包装容器内に内包させた場合と比較して、パッドを清潔に保ちつつ、持ち運びが容易となり、簡便な取扱いに資する。

【0057】

（16） 上記（9）から（14）のいずれかに記載の陰唇間パッドが、開封口を有する個別包装用の包装容器に内包されている包装体であって、前記陰唇間パッドが、前記指挿入用口が前記開封口に向かって開口するように、前記包装容器に内包されている包装体。

40

【0058】

「指挿入用口が開封口に向かって開口するように」とは、第17図に示すように、包装体54を開封するとその開封口にミニシート片52、ひいてはそれによって形成される指挿入用口53が表出し、即時に指挿入用口53に指を挿入することができるように内包されていることを意味する。例えば、第17図に示す包装体54は、包装容器56の上面側に付設されたタブテープ55を、図の右側に向かって引っ張ることにより開封することができ、その開封口に指挿入用口53が表出し、開封口に向かって開口する。従って、着用

50

者は、即時に指挿入用口 53 に指を挿入することができる。

【0059】

(17) 前記陰唇間パッドが、前記ミニシート片が前記陰唇間パッドの長手方向の略中心線に沿って衣服側方向に向かって山折り状となるように、前記包装容器に内包されている上記(16)に記載の包装体。

【0060】

「衣服側方向に山折り状となるように」とは、衣服側を凸として完全に折曲されている場合の他、第18図に示すように、衣服側を凸として湾曲させられている場合も含む意味である。このように、陰唇間パッド44を包装容器66内に内包させることによって、包装容器66の開封時に折り畳まれた指挿入用口53が自然に開くため、着用者は指を挿入する箇所を容易に把握することができ、陰唇間パッドの装着を一層迅速かつ簡易なものとすることができる。

【0061】

この態様においては、ミニシート片が「山折り状」となっていればよく、陰唇間パッド全体が「山折り状」となっていることを要しない。従って、例えば第18図に示すように、陰唇間パッド44全体を「山折り状」に折り畳んで包装容器66内に内包した包装体64以外に、第19図に示すように、ミニシート片52のみを「山折り状」とする一方、陰唇間パッド44の本体部分については、衣服側に向かって谷折り状に折り畳んで包装容器66内に内包した包装体74であってもよい。

【0062】

また、包装容器の開封形式は特に限定されず、第18図や第19図に示すように、その上端側を切り取って開封する包装容器66の他、第20図に示すように、上端から左右両側に（いわゆる観音開き式に）開封する包装容器86のようなものであってもよい。

【0063】

発明を実施するための最良の形態

以下、本発明の好適な実施形態の例について図面を参照しながら詳細に説明する。なお、本明細書において、陰唇間パッドの「幅」というときは陰唇間パッドの短手方向への寸法を意味し、陰唇間パッドの「長さ」というときは陰唇間パッドの長手方向への寸法を意味する。

【0064】

第1図は、本発明に係る陰唇間パッド14を示す図であり、第1図の(a)は上面図であり、第1図の(b)は第1図の(a)のA-A'断面図である。

【0065】

〔(A) 基本的な陰唇間パッドの構成〕

第1図の(a)及び第1図の(b)に示すように、本発明の基本的な陰唇間パッド14は、透水性の被覆シート11と不透水性のサポートシート12とが経血を吸収する吸収体13を内包させた形態で接合されて成るものである。被覆シート11とサポートシート12とは、パッドの周縁部において接合され、周縁接合部15を形成している。着用時には被覆シート11を身体側に対向させ、サポートシート12を衣服側に対向させるようにして用いられる。そして、図示の例では、サポートシート12にプルアップ体18が貼着されている。

【0066】

プルアップ体は、被覆シートとサポートシートとの周縁接合部を延出させてプルアップ体としてもよく、被覆シートやサポートシートのみを延出させてプルアップ体としてもよいが、第1図に示すように、プルアップ体18を別途付設してもよい。この場合においては、特に材質は限定されないが、被覆シートやサポートシートと同様の材質などを用いることができる。

【0067】

プルアップ体の形状は特に限定されないが、プルアップ体を摘んで陰唇間パッドを取り外す際に陰唇内壁に指が接触せず、パッドを着用した際にプルアップ体が陰裂よりも前方

10

20

30

40

50

に突出し、着用者が直接目視によって視認できる形状であることが必要である。従って、図示のようにプルアップ体 18 を、陰唇間パッド 14 の長手方向の縁端（身体前方側に近い方の縁端）において、当該縁端の先端から更に身体前方側に向かって突出するように形成した場合には、その長さは少なくとも 5 mm 以上であることが好ましく、8 ～ 30 mm の範囲であることが更に好ましい。この範囲未満であると、着用者がプルアップ体を視認することができないために、陰唇内壁および陰唇周辺に指が接触してしまうことになる。この範囲を超えると、着用中にプルアップ体が型崩れを起こし、取り外しの際にプルアップ体をつまみ難くなる可能性がある。幅としては、取り外しの際の摘み易さを考慮すれば、少なくとも 5 mm 以上とすることが好ましい。

【0068】

陰唇間パッド 14 の全体形状としては、陰唇に係着するのに好適な形状であれば特に限定されないが、実質的に縦長の形状であることが好ましく、例えば、楕円型、卵型、ひょうたん型、雫型等の形状とすることができる。

【0069】

陰唇間パッド 14 のサイズは、陰唇間に挿入し易く、陰唇自体で保持することができ、陰唇と陰唇間パッドとの間に空隙を生じないことを考慮した上で決定することが好ましい。このような観点から、長さは 80 ～ 150 mm の範囲であることが好ましく、90 ～ 120 mm の範囲であることが更に好ましい。この範囲を超えると陰唇間パッドの陰唇間に挟み込まれない部分がナプキンやショーツに接触することによって、陰唇間パッドが陰唇間から脱落するおそれがある。この範囲未満であると、陰唇内壁と陰唇間パッドとの接触面積が小さくなることにより陰唇間パッドと陰唇との間に空隙が生じ易くなり、体圧や着用者の動作等の衝撃により陰唇間パッドが陰唇間から脱落する危険性が生じる。また、陰唇間パッドの短手方向の見かけ上の長さ寸法は、10 ～ 60 mm の範囲とすることが好ましく、より好ましくは 20 ～ 40 mm の範囲とするのがよい。短手方向の長さ寸法が 60 mm より長い場合には、陰唇間に介在されることのない領域が着用者の大腿部などにこすれてしまい、これにより生じた摩擦が両陰唇による挟持力を上回り、陰唇間パッドが脱落するおそれがある。また、短手方向の長さ寸法が 10 mm より短い場合には、陰唇間に介在できる領域が少なくなるため陰唇内面との接触面積が減少し、陰唇間パッドの脱落の危険性が生じやすくなる。なお、上記の「見かけ」とは、長さ寸法が最短の 2 点間距離（第 36 図の V に該当）を意味する。これは、製造工程との関係で、凹凸形状を辿った 2 点間の道のり、すなわち、凹凸形状を展開したフラットな状態での 2 点間距離を実際の長さ（第 36 図の W に該当）として取り扱う場合があるため、入念に定義したものである。厚さについては、快適な着用感を考慮して、2 ～ 10 mm の範囲とすることが好ましく、3 ～ 6 mm の範囲とすることが更に好ましい。

【0070】

被覆シート 11 及び／又はサポートシート 12 に内包される吸収体 13 のサイズは、被覆シート 11 及び／又はサポートシート 12 に内包した際にその周縁部が硬くなり装着感を悪化させることを防止するべく、被覆シート 11 及び／又はサポートシート 12 の外輪郭から 2 ～ 10 mm 程度小さく構成することが好ましい。

【0071】

陰唇間パッドの全体的な形態としては、例えば、第 21 図に示すような、被覆シート 11 とサポートシート 12 との間に吸収体 13 を内包させ、陰唇間パッドの周縁部において、被覆シート 11 とサポートシート 12 とを接合して、周縁接合部 15 を形成した貼り合わせタイプのものが挙げられる。この態様においては、被覆シート 11 と吸収体 13 との間に更に透水性材料が介在していてもよい。この他の態様としては、図示しないが、吸収体の下面側にサポートシートを配置した後、両部材を一体的に被覆シートで被包して成る封入タイプのもの等がある。

【0072】

更に他の態様としては、例えば、第 22 図に示すように、吸収体 13 の一部を身体側に向かって凸型に隆起せしめた立体的な構造を有するもの、第 23 図に示すように、幅の異

10

20

30

40

50

なる上部吸収体 13a と下部吸収体 13b とを積層し、その前後部分ないし当接部分を相互に接合せしめた立体的な構造を有するもの等が挙げられる。このような立体的構造を有するものは、陰唇形状に対する適合性が高い点において好ましい。

【0073】

[被覆シート]

被覆シートは、陰唇内壁と直接接触する部分であるため、肌に刺激を与えない材料により構成することが好ましい。例えば、メルトブローン、スパンボンド、スルーエア、ポイントボンド、ニードルパンチ、スパンレース等の製造方法によって得られる不織布材料を単独で、又は適宜複合せしめたものを使用することができる。より具体的には、レーヨン、アセテート、天然コットン、パルプ、又は合成樹脂（単独繊維、或いは芯鞘構造の複合繊維）を単独で、或いは適宜混合してシート化したものが挙げられる。このような材料のうち、陰唇内面からの液移動性や活性剤による化学的刺激及び陰唇内壁との密接性を考慮すると、身体面側には繊維度 1.1～4.4 d t e x、繊維長 7～51 mm からなるレーヨンを合計目付に対して 40～80% を積層、その衣服面側には繊維度 1.1～4.4 d t e x、繊維長 7～51 mm からなり合計目付に対して 14～42% のレーヨンと繊維度 1.1～4.4 d t e x、繊維長 7～51 mm からなり合計目付に対して 6～18% の P E T を混合して積層し、2 層の合計目付が 20～60 g/m² となるよう積層した後、水流交絡により繊維同士を絡合させて乾燥させ、厚みを 0.13～0.50 mm の範囲で調整したスパンレース不織布が好ましい。この際、衣服面側に P E T を混入する事により、透水性シートが湿潤状態になっても嵩を維持しやすいため陰唇内壁との密接性を保つことができ

10

20

【0074】

[吸収体]

吸収体は、嵩高であり、型崩れが比較的少ない材料により構成することが好ましい。例えば、粉碎パルプ、レーヨン、アセテート、天然コットン、ケミカルボンド処理されたエアレイドパルプ、高吸水性ポリマー、繊維状高吸収性ポリマー、合成繊維などを適宜混合したもの等が挙げられる。また、既述の被覆シートを陰唇間パッド内部に充填することにより、吸収体としてもよい。

【0075】

吸収体は、液体（体液）の吸収保持が可能であればよいが、嵩高であり、型崩れし難く、化学的刺激が少ないもので、さらには陰唇への適合が高い柔軟性を有することが好ましい。具体的には、衣服面側には、繊維長 1～10 mm の範囲から選ばれるパルプを 50～150 g/m² 積層し、その身体面側には、繊維度 1.1～4.4 d t e x、繊維長 20～51 mm の範囲から選ばれるレーヨンを 60～90%、天然コットンを 40～10% の混合比で 150～250 g/m² 積層してドット状のエンボス加工によりシート化させた、嵩 2～10 mm、好ましくは 3～5 mm に調整した不織布シートが挙げられる。これにより、身体面側から衣服面側へ液体を移行させやすく、吸収保持力が高まる。さらには、上記パルプ層の身体面側には繊維度 1.1～4.4 d t e x、繊維長 25～51 mm からなるレーヨンを目付 15～40 g/m² に調整したメッシュスパンレース不織布を敷設する事により、身体面側から移行してきた液体をメッシュスパンレースにより拡散させ、パルプ層のほぼ全域に液体を誘導させる事ができるので、効率良くより多くの液体を吸収する事が可能である。

30

40

【0076】

[サポートシート]

サポートシートに使用する材料は、吸収体に保持された経血が陰唇間パッドの外へ漏れ出すことを防止することができる不透水性の素材を用いる。更に、透湿性素材から成ることにより、装着時のムレを低減させることができ、装着時における不快感を低減させることが可能となる。

【0077】

サポートシートに用いる不透水性素材としては、例えば、合成樹脂を薄膜化したシート

50

状不透水性フィルム、通気性フィルム、不織布の裏面にフィルムをラミネート加工して成る複合体などが挙げられる。不透水性の素材を採用する場合のより具体的な構成例としては、低密度ポリエチレン（LDPE）樹脂を主体とした、密度 $0.900\sim 0.925\text{ g/cm}^3$ 、目付 $15\sim 30\text{ g/m}^2$ の範囲から得られるフィルムが挙げられる。着用感を損なわない柔軟性を考慮したものである。さらに好ましくは、陰唇間に装着されている際に、不透水性シート同士、または併用するパッド、下着などに接触した時に、摩擦が高く陰唇間パッドが陰唇から脱落してしまう危険性を低下させるために、上記フィルムにエンボス加工をし、凸状の隆起部を設ける事で、接触率を低下させ摩擦抵抗値を少なくさせてあっても良い。

【0078】

10

[ミニシート片]

ミニシート片に使用する材料は、指を挿入した際に破損しない程度の強度を有することを考慮した上で選択することが好ましく、シート状不織布、弾性伸縮性不織布、フィルム、フォームフィルム、エラストックフィルム、発泡シート、薄葉紙等を単独で又はこれらをラミネート加工したものの中から選択することが可能である。

【0079】

ミニシート片の形態としては、例えば、第24図に示すように、陰唇間パッド44を構成するサポートシート42の衣服側表面に沿って、陰唇間パッド44の短手方向に帯状のミニシート片52を横断的に配置する形態が挙げられる。この形態では、ミニシート片52は陰唇間パッド44の両側端において固定され、陰唇間パッド44の長手方向に向かって開口部、即ち指挿入用口53が形成されている。

20

【0080】

上記形態においては、指91の腹をサポートシート42に当接させながら指挿入用口53に指91を挿入すると、第25図に示すように、陰唇間パッド44の長手方向と陰裂92の方向とが同一方向を向く。そして、指91の腹で陰唇間パッド44を陰唇内部に押し込むことができるため、陰唇間パッド44を確実に装着することが可能となる。

【0081】

また、ミニシート片は、例えば、第26図に示すように、陰唇間パッド44の長手方向の中央部近傍から当該長手方向の一方の縁端93まで、陰唇間パッド44を構成するサポートシート42が完全に被覆されるように構成してもよい。このような形態は、指91の先端がミニシート片52から露出することが防止され、経血と指91とが非接触の状態に保たれるため、衛生的な取扱いが可能となる点において好ましい。

30

【0082】

なお、例えば、第27図に示すような、帯状のミニシート片52を間隔を空けて複数形成した陰唇間パッド44も、指91の先端がミニシート片52から露出することが防止されるため、第26図に示す陰唇間パッド44と同様に、衛生的な取扱いが可能となるという効果を得ることができる。

【0083】

また、陰唇間パッドにミニシート片を付設する際には、例えば、第28図に示すように、陰唇間パッド44全体を長手方向の略中心線に沿って身体側に向かって山折り状に折曲し、その立体的形状を保持するようにミニシート片52を付設することが好ましい。このような構造は、陰唇間パッドが陰唇形状に適合し易くなる点において好ましい。また、第35図に示すように、ミニシート片52の側端部を更に陰唇間パッド44の側方に延出してプルアップ体48としたものは、別途プルアップ体を付設する態様と比較して、より簡便にプルアップ体を形成することができるという利点があるため好ましい。

40

【0084】

[接合方法]

上記の各部材は、ヒートエンボス加工、超音波シール、或いはホットメルト型接着剤による接着等を単独で使用して、又は併用することによって接合されている。

【0085】

50

〔包装容器〕

本発明の陰唇間パッドを包装する包装容器は、従来公知のものを用いることができる。例えば、PE（ポリエチレン）、PP（ポリプロピレン）、PET（ポリエチレンテレフタレート）等から成る不織布や厚さ15～60μm程度のフィルム、紙、或いはこれらをラミネート加工したラミネート材などが挙げられる。

【0086】

〔（B）生分解性・水分散性・水溶性を付与した陰唇間パッドの構成〕

本発明の陰唇間パッドは生分解性素材及び／又は水分散性素材及び／又は水溶性素材で構成されていることが好ましい。このような陰唇間パッドは使用後そのままトイレに脱落させて流すことができるため、陰唇間パッドの破棄を簡便かつ清潔に行うことができ、トイレ内のゴミの低減を図ることもできるからである。

10

【0087】

本明細書において、「生分解性」とは、放線菌をはじめとする細菌、その他の微生物の存在下、自然界のプロセスに従って、嫌気性又は好気性条件下で物質が二酸化炭素又はメタン等のガス、水及びバイオマスに分解されることをいい、当該物質の生分解能（生分解速度、生分解度など）が、落ち葉等の自然に生じる材料、もしくは同一環境下で生分解性として一般に認識される合成ポリマーに匹敵することをいう。「水分散性」とは、水解性と同じ意味であって、使用時の限定された量の水分（経血）では影響はないものの、多量の水または水流中では、繊維同士が、少なくとも一般のトイレ配管を詰まらせることがない程度の小断片に容易に分散される性質のことをいう。「水溶性」とは、使用時の限定された量の水分（経血）では影響はないものの、多量の水または水流中においては溶解する性質のことをいう。

20

【0088】

〔被覆シート〕

生分解性・水分散性・水溶性を付与するための被覆シートの材料としては、例えば、繊維長を1～1.5mmの範囲とした湿式спанレース不織布が挙げられる。また、ポリ乳酸、ポリブチレンサクシネート等の生分解性樹脂、アセテート又はレーヨン、合成繊維などの単独または連続繊維であるトウを50～300g/m²の範囲に調整し、解繊したものを使用することもできる。

【0089】

〔吸収体〕

生分解性・水分散性・水溶性を付与するための吸収体の素材としては、前記被覆シートと同様のものを用いることができる。また、1.1～6.6d texの範囲から選ばれるレーヨン又はアセテートを60～90%、繊維状高分子吸収体を10～40%の混合比で積層した繊維を、ニードリングにより絡ませ、シート化した目付50～250g/m²、2～5mmの嵩を有する不織布シートを用いてもよい。前記不織布シートをカルボキシメチルセルロース繊維により構成すると、生分解性・水分散性・水溶性が向上する点においてより好ましい。

30

【0090】

〔サポートシート〕

生分解性・水分散性・水溶性を付与することができ、かつ、不透水性のサポートシートの素材としては、PVA（ポリビニルアルコール）フィルム、PVAフィルムの片面または両面にシリコン樹脂などにより撥水処理を施したシート、シリコン樹脂を混合したPVAフィルム、デンプンフィルム、ポリ乳酸またはポリブチレンサクシネート等の生分解性樹脂を原料としたフィルム及びこれらとティッシュ等とのラミネート材などが挙げられる。

40

【0091】

〔ミニシート片〕

生分解性・水分散性・水溶性を付与するためのミニシート片の素材としては、ポリ乳酸、ポリブチレンサクシネート、PVA樹脂等の生分解性または水溶性樹脂からなるシート

50

状物が挙げられる。

【0092】

[プルアップ体]

生分解性・水分散性・水溶性を付与するためのプルアップ体の素材としては、既述の被覆シートやサポートシートと同様の材質などを用いることができる。また、前記ミニシート片と同様の素材を用いてもよい。

【0093】

[接合方法]

また、生分解性・水分散性・水溶性を付与するための接合方法としては、熱可塑性PVA樹脂を主体とする接着剤による接着、或いはデンプン糊、アクリル酸を主体とし、架橋剤、可塑剤または水を含んで成るゲルによる接着などが挙げられる。

10

【0094】

[包装容器]

生分解性・水分散性・水溶性を付与するためには、包装容器を、水溶性繊維を使用した繊維シート、生分解性又は水溶性樹脂を使用したフィルム、或いは上記繊維シートと上記フィルムのラミネート材、上記フィルムとティッシュとのラミネート材等で構成するとよい。

【0095】

産業上の利用可能性

以上説明したように、本発明においては、陰唇間パッドを陰唇に係着させた状態において、身体前方側に向かって突出するプルアップ体を備えたものとしたので、着用者の肌を広く汚すことのない清潔性と、下着への汚れの付着が低減される安心感という、基本的な性能を担保するのは勿論のこと、陰唇間から迅速かつ簡便に、しかも衛生的に取り外すことが可能となる。

20

【図面の簡単な説明】

【0096】

第1図は、本発明の陰唇間パッドの構成を示す図であって、第1図の(a)は上面図、第1図の(b)は第1図の(a)のA-A'断面図である。

第2図は、従来の尿失禁防止器具の構成を示す斜視図である。

第3図は、本発明の陰唇間パッドの構成を示す上面図である。

30

第4図は、本発明の陰唇間パッドの構成を示す底面図である。

第5図は、本発明の陰唇間パッドの折り曲げた状態の構成を示す側面図である。

第6図は、本発明の陰唇間パッドの構成を示す上面図である。

第7図は、本発明の陰唇間パッドの折り曲げた状態の構成を示す側面図である。

第8図は、本発明の陰唇間パッドの構成を示す上面図である。

第9図は、第8図に示す陰唇間パッドのA-A'断面図である。

第10図は、本発明の陰唇間パッドの構成を示す断面図である。

第11図は、本発明の陰唇間パッドの構成を示す断面図である。

第12図は、本発明の陰唇間パッドの構成を示す上面図である。

第13図は、本発明の陰唇間パッドに係るプルアップ体の拡大図である。

40

第14図は、本発明の陰唇間パッドに係るプルアップ体の拡大図である。

第15図は、本発明の陰唇間パッドの構成を示す斜視図である。

第16図は、本発明の陰唇間パッドの構成を示す斜視図である。

第17図は、本発明の包装体の開封方法を示す工程図である。

第18図は、本発明の包装体の構成を示す斜視図である。

第19図は、本発明の包装体の構成を示す斜視図である。

第20図は、本発明の包装体の構成を示す斜視図である。

第21図は、本発明の陰唇間パッドの構成を示す断面図である。

第22図は、本発明の陰唇間パッドの構成を示す断面図である。

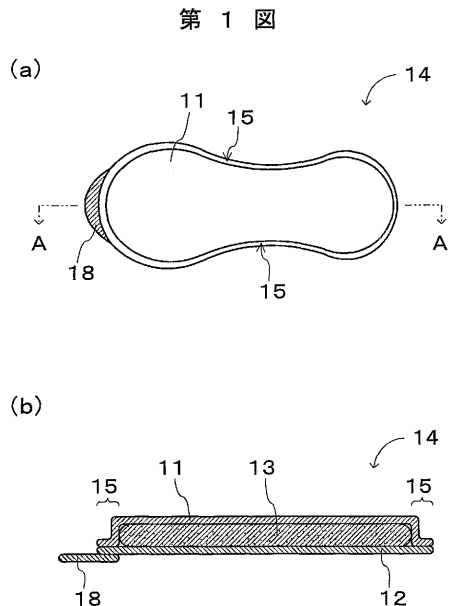
第23図は、本発明の陰唇間パッドの構成を示す断面図である。

50

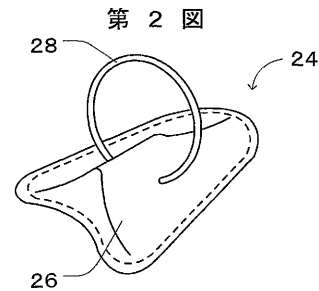
第 2 4 図は、本発明の陰唇間パッドに係るミニシート片の態様を示す上面図である。
 第 2 5 図は、本発明の陰唇間パッドの装着方法を示す説明図である。
 第 2 6 図は、本発明の陰唇間パッドに係るミニシート片の態様を示す上面図である。
 第 2 7 図は、本発明の陰唇間パッドに係るミニシート片の態様を示す上面図である。
 第 2 8 図は、本発明の陰唇間パッドの構成を示す断面図である。
 第 2 9 図は、本発明の陰唇間パッドの構成を示す上面図である。
 第 3 0 図は、本発明の陰唇間パッドの折り曲げた状態の構成を示す側面図である。
 第 3 1 図は、本発明の陰唇間パッドの取り外し・廃棄方法を示す工程図である。
 第 3 2 図は、本発明の陰唇間パッドの構成を示す上面図である。
 第 3 3 図は、本発明の陰唇間パッドの構成を示す底面図である。
 第 3 4 図は、第 3 2 図に示す陰唇間パッドの A-A' 断面図である。
 第 3 5 図は、本発明の陰唇間パッドの構成を示す断面図である。
 第 3 6 図は、陰唇間パッドの短手方向における長さ寸法を説明するための図である。

10

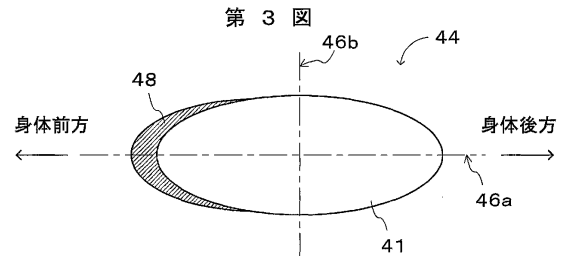
【図 1】



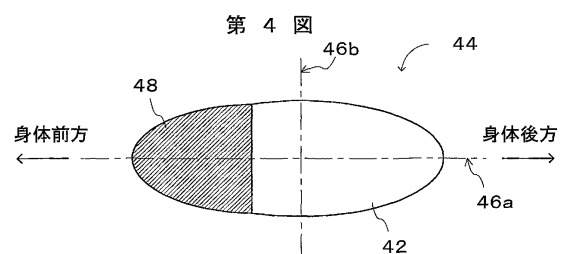
【図 2】



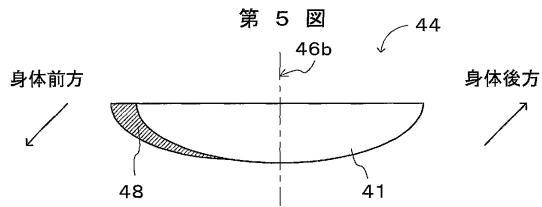
【図 3】



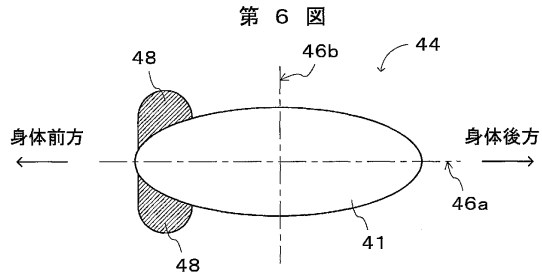
【図 4】



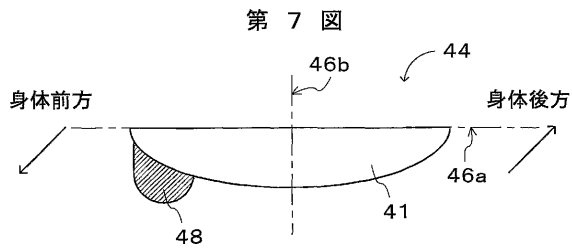
【図 5】



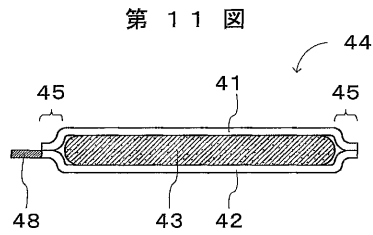
【図 6】



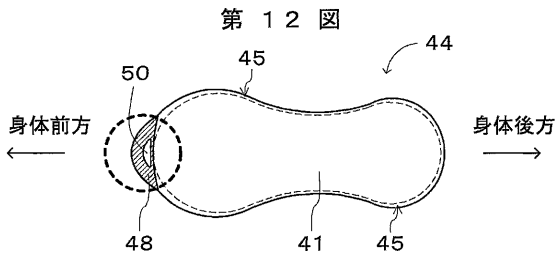
【図 7】



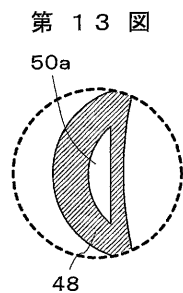
【図 11】



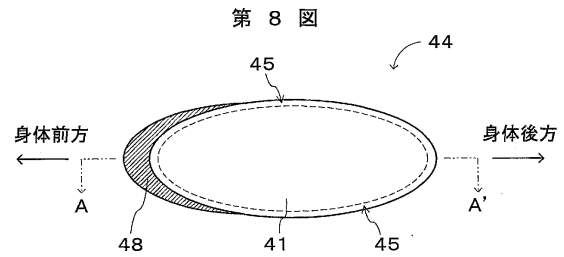
【図 12】



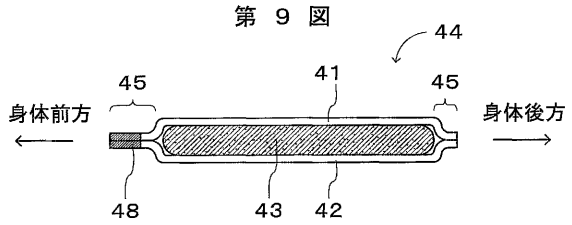
【図 13】



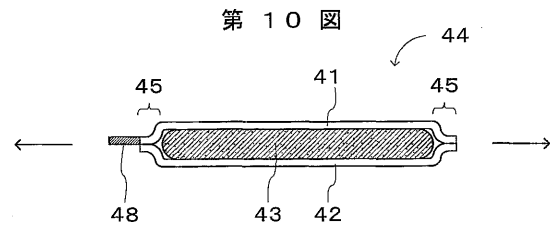
【図 8】



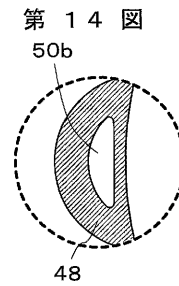
【図 9】



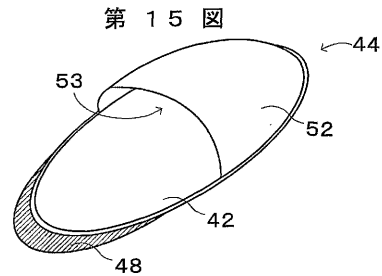
【図 10】



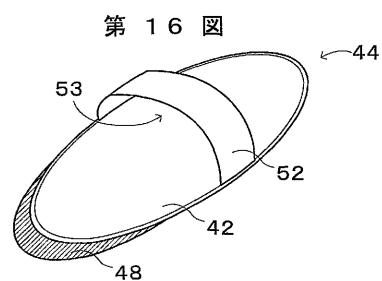
【図 14】



【図 15】

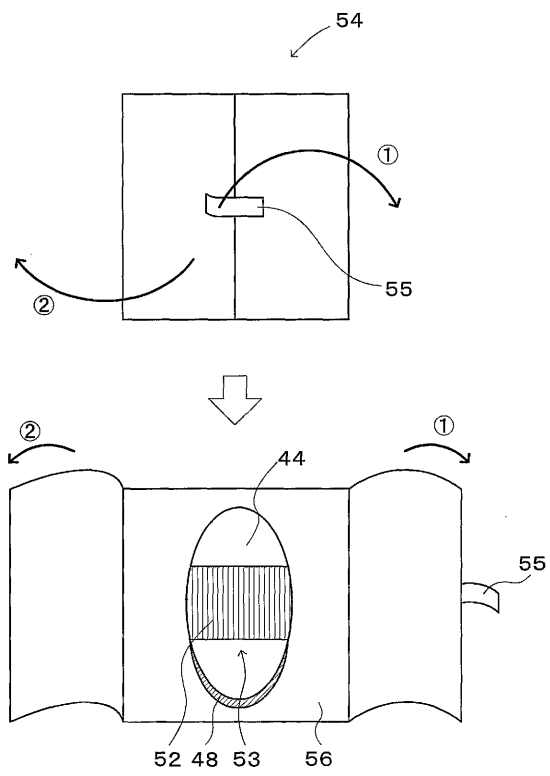


【図 16】



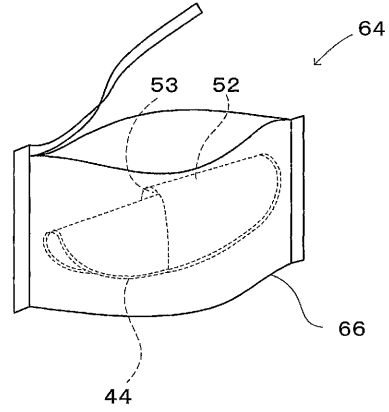
【図 17】

第 17 図



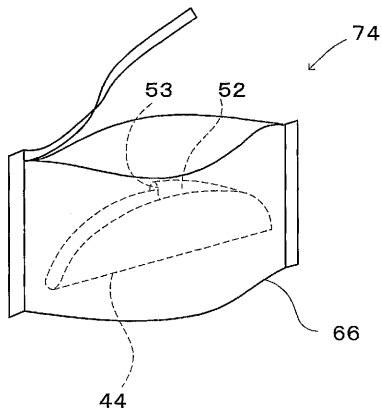
【図 18】

第 18 図



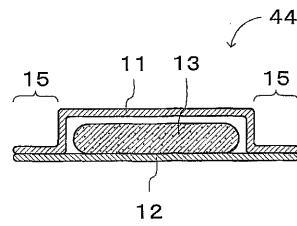
【図 19】

第 19 図



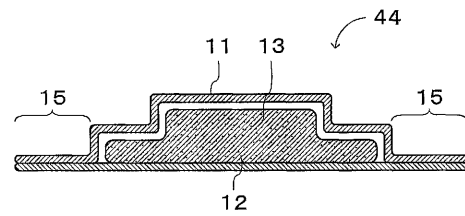
【図 21】

第 21 図



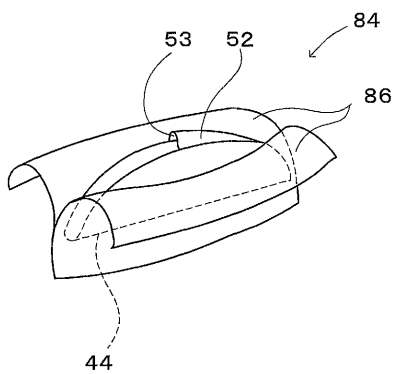
【図 22】

第 22 図



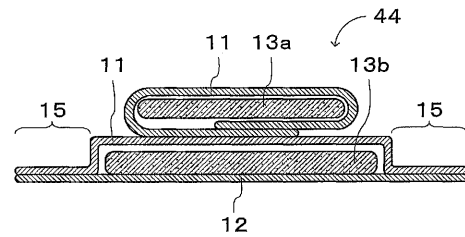
【図 20】

第 20 図

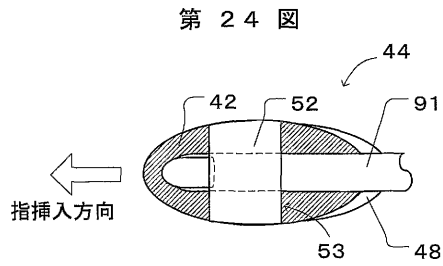


【図 23】

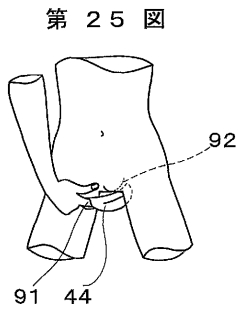
第 23 図



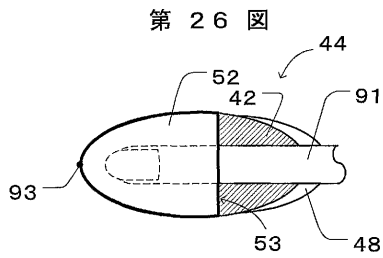
【図 24】



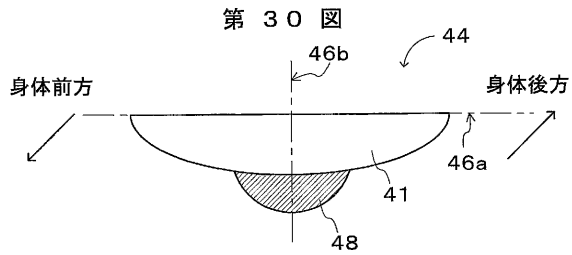
【図 25】



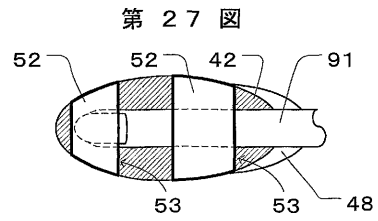
【図 26】



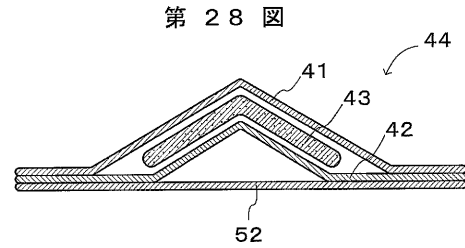
【図 30】



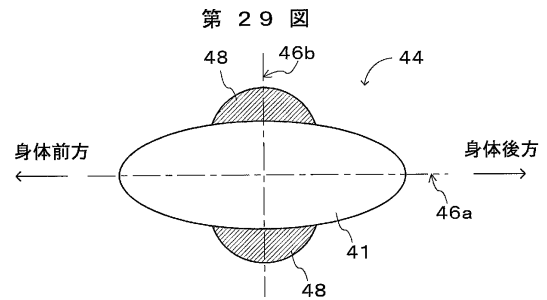
【図 27】



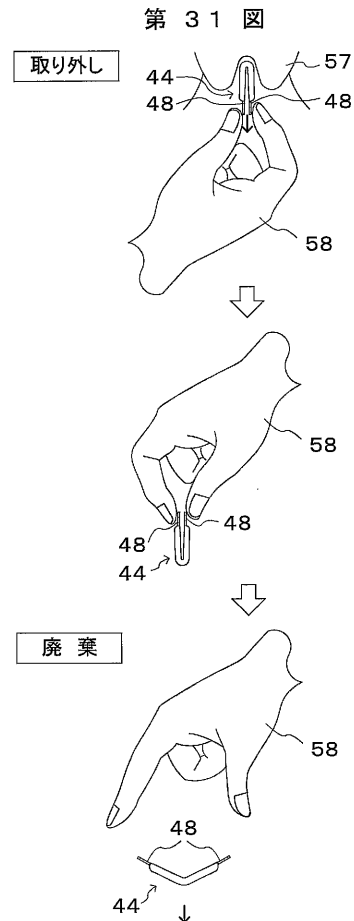
【図 28】



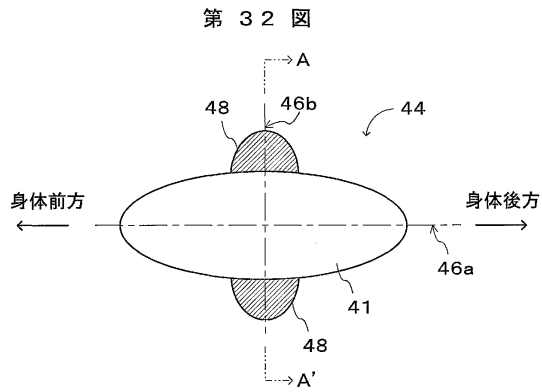
【図 29】



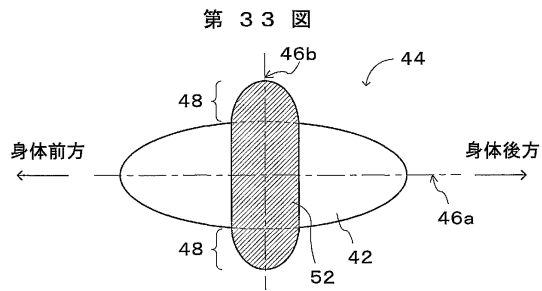
【図 31】



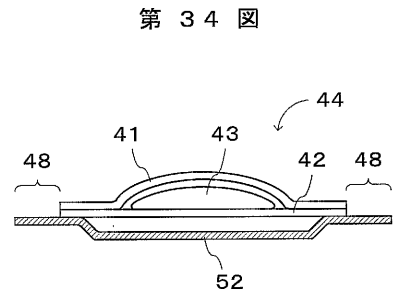
【図 3 2】



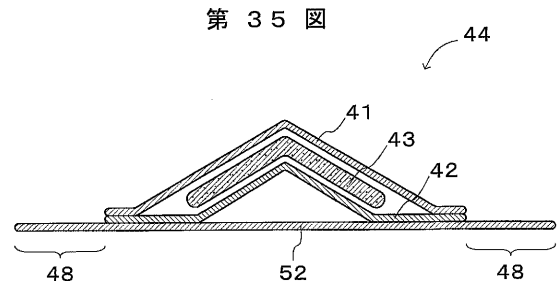
【図 3 3】



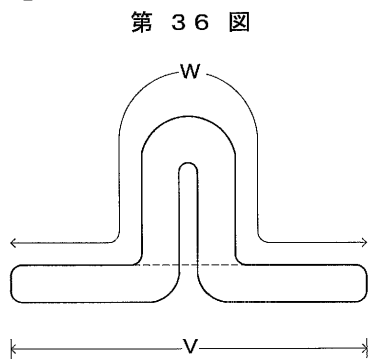
【図 3 4】



【図 3 5】



【図 3 6】



フロントページの続き

(72)発明者 野田 祐樹

香川県三豊郡豊浜町和田浜高須賀1531-7 ユニ・チャーム株式会社テクニカルセンター内

(72)発明者 徳本 恵

香川県三豊郡豊浜町和田浜高須賀1531-7 ユニ・チャーム株式会社テクニカルセンター内

(72)発明者 酒井 あかね

香川県三豊郡豊浜町和田浜高須賀1531-7 ユニ・チャーム株式会社テクニカルセンター内

審査官 渡邊 豊英

(56)参考文献 特表2001-506170 (JP, A)

米国特許第02682875 (US, A)

米国特許第05658270 (US, A)

国際公開第99/026575 (WO, A1)

特表2000-501322 (JP, A)

特表2001-506532 (JP, A)

特表2001-509402 (JP, A)

米国特許第03726277 (US, A)

(58)調査した分野(Int.Cl., DB名)

A61F 13/00-13/84,

A61F 5/44